

豊かなつながりを通して、未来を切り拓く子どもの育成

～ひと・もの・こととのつながりの中で新たな価値を見出す生活科・総合的な学習の授業づくり～

光市立岩田小学校

1 研究の概要

本校では、「豊かなつながりを通して、未来を切り拓く子どもの育成」を研究主題として、生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを中心に研修を進めてきた。まず、つぎのような研究仮説を立て、3つの視点を設定し、カリキュラム編成や単元開発を行ってきた。

【研究仮説】

「子どもが切実な課題を見つける場を工夫し、課題解決のために地域のひと・もの・ことと豊かにつながる体験活動を積み重ね、自己を見つめ直す場を保障することができれば、子どもは自分の成長の中に新たな価値を見出し、未来を切り拓いていく力を獲得できるであろう。」

【研究の視点】

- ① 地域の事象の中から切実な課題を見つけることができる場の工夫
- ② ひと・もの・ことと豊かにつながる体験活動の保障
- ③ 自己を見つめ直すことができるループリックの作成

2 授業実践

(1) 単元名 動く動く わたしのおもちゃ(2年 生活科)

① 授業の実際

【身近なもので遊ぼう】(1次1時、2時)

紙コップや輪ゴム、ペットボトルキャップなど、子どもたちの身の回りにあるものを準備し、自由に遊ぶ時間と場を設けた。子どもたちは、転がす、投げる、倒すなど様々な遊び方を考え、身の回りにあるもので楽しく遊ぶことができることに気付いた。また、遊びの中で、点数や距離、時間を競う姿も見られ、遊びの中にルールを工夫ができていった。さらに、子どもたちから「切りたい。」「くっつけたい。」「他に箱を持ってきたい。」など、もの自体に工夫を加えたいという思いが生まれ、おもちゃづくりに対する子どもたちの思いを十分耕す時間となった。



【おもちゃランドに招待しよう】(5次3時)

各グループで考えたおもちゃ、遊び方でおもちゃランドを開き、1年生を招待した。当日まで「みんなが楽しめるようにすること」を目標にし、自分たちも来てくれたお客さんも楽しむことのできる場所にしたいという思いを全員がもって、試行錯誤しながら

準備を進めた。初めてお客さん招待し、自分たちが考えたおもちゃで遊んでもらったことで、自分たちが考えたおもちゃや遊び方が「みんなが楽しめる」ものになっていたのを振り返ることのできるよい機会となった。

【いわたっ子まつりに招待しよう】（7次2時）

地域の幼稚園・保育園の子どもたちを招待し、第2回目のおもちゃランドを開いた。子どもたちは、おもちゃランドでの気付きをもとに「みんなが楽しめる」ようにするために準備や練習してきたことを発揮できたとともに、園児との交流を深めることができた。困ったときには、同じグループの友達と相談したり、役割を分担したりと、自分たちで考えて行動する姿も見られた。



② 成果と課題

【地域の事象の中から切実な課題を見つけることができる場の工夫】

○成果

- ・子どもたちが主体的な探究活動を進めていくことができるように、子どもたちの「～したい」という思いを大切にしながら授業を進めていった。本時の自分または自分たちのグループの様子を振り返り、次の時間に必要な活動を考えることで、子どもたち自身にとっての切実な課題を見つけ、次の活動に取り組むことができた。

●課題

- ・子どもたちの「～したい」という思いが、全て課題解決に対するものであり、学習内容や子どもたちの考えを深めるものや探求心へとつながることができていなかった。

【ひと・もの・ことと豊かにつながる体験活動の保障】

○成果

- ・1次で、身近なものを使って自由に遊ぶ時間と場を設けたことで、子どもたちは進んで活動を始め、次々とアイデアを出し合いながら主体的に活動に取り組むことができていた。また、工夫をすれば、自分たちが楽しめることに気付くことができた。

●課題

- ・本單元ではグループでの活動時間が多く、全体や他のグループとの交流や共有をする時間が少なかったと感じた。

【自己を見つめ直すことができるルーブリックの作成】

○成果

- ・全体のめあてを共有し、各グループのめあてをグループごとに決めたことで、本時ですることがより明確になり、自分たちがすべきことを見直すきっかけとなっていた。

●課題

- ・毎時間の振り返りであったため、単元全体を通して、どんな力がついてきたのか、どのように自分が成長したのかを実感する評価の仕方にすることができなかった。

(2) 単元名 自分の未来をデザインしよう(6年 総合的な学習の時間)

① 授業の実際

【夢授業】(1次5時, 7時)

身近な人や地域の人との関わりを通して、自分なりの職業観・勤労観に対する考えを広げたり深めたりすることができるように、保護者や地域の方をゲストティーチャとして招き、働く人の思い(職業観・勤労観)を知る機会を設けた。金融業やドローンを使った新しい事業など様々な職種の方々から仕事内容や1日のスケジュールなどを教えていただいた。世の中には自分の知らない様々な仕事があることを知り、進んで調べていこうとする意欲を高めることができた。



また、「働く意義」や「働く上で大切にしていること」、「そのために日常生活で大切にしたいこと」など働く人の思い(職業観・勤労観)を聞いたことで、これまで抱いていた「働くこと」へのイメージが前向きなものへと変わっていく学習活動となった。

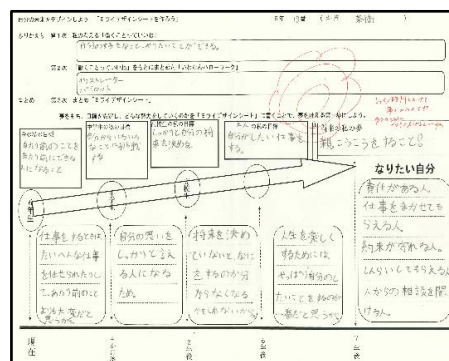
【いわたんハローワークをつくろう】(2次6時~8時)

自分たちの知っている仕事を出し合い、それらの仕事を分野ごとにカテゴリライズし、関心のある分野の仕事について調べることにした。自分の関心のある職業について調べて分かったことをタブレットにまとめ、学級全体で「いわたんハローワーク」を作成した。たくさんの情報からクラスの友達に伝える内容を吟味し、仕事内容や必要な資格等、自分に必要な情報を収集していた。

また、写真やイラストを使ったり、Q&Aのようにしたりするなど、まとめ方にも工夫が見られた。さらに、「いわたんハローワーク」には、その職業に関する自分なりの「働くことっていいね」(職業観・勤労観)をまとめることとした。タブレット上で、友達が作成した「いわたんハローワーク」を共有することができ、様々な職業についての知識や情報を得ることができた。

【ミライデザインシートをまとめよう】(3次2時, 3時)

今の生活と将来の夢や関心のある仕事結びつくように、「ミライデザインシート」を作成した。日常生活で実践することや夢を実現するまでの道りを視覚的に表すことで、今の自分を見つめ、日常生活で大切にしていきたいことを主体的に探ることができた。また、職業人の方々の「大切にしていること」の多くが日ごろの生活において実践できることに気づき、日ごろの生活を大切に過ごしていこうとする意欲を高めることにつながった。



② 成果と課題

【地域の事象の中から切実な課題を見つけることができる場の工夫】

○成 果

- ・単元の導入で、ウェビング図を活用して、働くことのイメージを明らかにした。ウェビング図から働くことについてマイナスなイメージを持っている子が多かったため、「どんな思いをもって働いているか」という共通課題を設定した。子どもたちも共通課題を意識し、職業人の仕事に対する思いを考えることができた。

●課 題

- ・ウェビング図を基に自分の課題と共通課題の2つを設定したが、自分の課題を意識したり、解決しようとしたりすることができなかった。子どもたちの知りたいことや学んでいきたいことはそれぞれ異なるため、どのような学習活動を展開すると、個人の課題の解決につながっていくのか考えていく必要があった。

【ひと・もの・ことと豊かにつながる体験活動の保障】

○成 果

- ・「夢授業」を行ったことで、保護者や地域の方から働くことに関わる話を聞くことができた。仕事の種類や仕事内容などは、インターネットを活用することで調べることができるが、人と直接対話することで、職業人の職業観や勤労観に触れることができた。

●課 題

- ・「夢授業」以外にも職業人との関わりをもつことができれば、さらに自分なりの職業観や勤労観を広げることができたのではないかと考える。

【自己を見つめ直すことができるルーブリックの作成】

○成 果

- ・評価規準に応じて、教師がそれぞれ「ルーキー」、「レギュラー」、「スター」、「スーパースター」の4つの評価基準を設定した。ルーブリックを基に目指す子どもの姿を明らかにして、授業に臨むことができた。また、別に、子どもと一緒にルーブリックを作成した。授業の前に本時の評価項目を意識させ、毎時間、授業後に評価項目に応じた自己評価を行った。自分たちで作成したものへの思いは強く、単元を通して、ルーブリックによる評価を継続することができた。

●課 題

- ・教師が作成したルーブリック評価と子どもと一緒に作成したルーブリック評価があったため、教師が作成したルーブリック評価に目が向かなかった。子どもが考えるルーブリック評価は、どの学習でも用いることができるような広い内容になるため、総合的な学習の時間ならではの、独自性が見られない。

令和6年11月1日には、「中国地区生活科・総合的な学習の時間教育研究大会」の会場校として、本校で授業公開をすることになっている。先進的な取組を紹介できるよう今後も研鑽していきたい。